

わなぐら 和名倉 百年の森

和名倉山は豊かな自然を育む名峰、遙か昔より「ちちぶ」に水の恵みをくれた荒川の濫觴である。

ここへわたしたちは世代を越え、ぶなの木を植え続ける。荒川の清流にうるおう多くの命のために。

2006
3.31

11号

確かな未来

森づくりが願うもの

百年の森づくりの会会長 内藤 勝久

昨年はイヌブナの豊作で30000粒の110周年の記念事業として寄居町の風布が一挙に吹き飛んでしまいました。

実を拾い、お借りした長瀬と中津川の苗畑で100年の森づくりに着手しました。同 それから2週間後に3000万本の木をに種を蒔くことができました。ようやく念 窓生と一緒に50名を超える在校生が自分 植えた男として有名な横浜国立大学名誉教 願の自前の苗を育てることができるとに たちの樹を植え、植林の楽しさ、参加した 授で、(財)国際生態学センター 研究所長 になったのです。まもなくたくさんの若葉が 喜びを噛み締めていました。従来は別々の の宮脇昭先生が長瀬宝登山での講演のため 畑一面新緑に覆ってくれることでしょう。 活動をしていた同窓生と在校生が共同でこ 来長され、前夜に催された歓迎の宴に、野 年内にはポットに移してポット苗として育 の事業を推進することになり、先輩と後輩 澤常務理事のご配慮で参加することができ て、3年後には山に植栽することになりま の絆がより強まり、夢の継承も確実となり ました。宝登山神社の社叢林に皆で千年の す。そして下草を3〜4回刈れば落葉広葉 ました。

樹の森づくりの作業は完了です。後は樹 一方埼玉大学では新年度から植林活動の との壮大なロマンに心が躍りました。来年 に任せておけば、互いに競い合いながら年 授業がスタートします。農学部をもたない の百年の森づくりの会の10周年記念事業 輪を刻み、確実に大樹に成長して、立派な 国立大学では初めての試みです。大学の夏 として、深くこのプロジェクトに関わり、 森林が形成されるといふシナリオです。 休みを使って8月に1回、9月に2回、毎 エコツアーを包含する大きな町おこし運動

採種、播種、育苗、移植、植栽、下草刈 回30名で合計90名の参加を予定してい を展開したいの思いが、日を追うごと にりとビジネスモデルならぬ植林モデルの骨 ます。2泊3日の集中授業に参加すれば単 強くなってきました。

子が固まりましたので、これから活動の輪 位が取得できる内容で、早くも女子大生か 先日安田喜憲先生の「森を育てる文明・ が一挙に広がる予感がいたします。老若男 が参加したいとの申し出を受けていますの 支配する文明」を読み、目指すべき日本の 女だれでも身の丈にあった作業への参加が で、4月のガイダンスではかなりの反響が かったが「森の環境国家」にあることを知 り、勇気づけられました。最先端の技術と 可能となるからです。ミスナラ、コナラ、 あるものと今から楽しみにしています。

トチなどのどんぐりは毎年採取できるの さる1月29日に開催された埼玉県主催 日本人のDNA「森のこころ」の融合に で、幼児からお年寄りまでなんらかの作業 の「上下流交流による森づくりシンポジウ によって、自然と共生しながら持続可能な、 への参加が可能です。また登校拒否の子供 ム」にパネラーとして参加させていただき 安心して暮らせる国づくりが可能です や身障者の方々もみんなと一緒に汗を流 ましたが、1000名をこえる来場者の上 あると認識したのです。ピラミッドや万里 し、森林の靈気に触れることによって、大 記の報告ができたことは、会を知っていた の長城の様な構造物でなく、森林を残した いるものに気づき、生きる喜びを見出し だく上で大変よかったです。基調講 縄文人の英知が、新たな価値観として世界 てくれるに違いありません。すでに支援グ 演された建築家の黒川紀章先生から「内藤 の人々に浸透し、森づくりが世界中で始ま ループから参加の問い合わせが届いていま さんたちのように森林づくりに真剣に取り れば、紛争のない確かな未来が実現するに ず。

昨年10月に県立浦和高校同窓会は、 組んでいるグループがあり安心した」と名 違いありません。 指して褒められ、8年間のさまざまな苦労

県有林伐採跡地における森林再生の取組みについて

百年の森づくりの会 常務理事 田島克己

一 環境教育林としての中津川山吹沢 できることから、これまでの山吹沢植 林は、30%以下と他県に比べて低いこ
県有林の整備 林地（県有林9林班が3・4・5・6・ とからも分かるように、県有林は優れ

2003年より始められた山吹沢 12・13・14小班）は、県有林内にお た天然林を残しながら維持されてき
地区の植林作業は、人工林伐採跡地を いて貴重なエリアといえます。 ました。

秩父にふさわしい森林として植生回 埼玉県の県有林は、日本で初めての 山吹沢の森づくりは、秩父の森林に
復するという大きな目標のもとで進 近代林学者である本多静六博士の寄 深く学びながら、森に働きかけ、その
められてきました。 贈によって、昭和五年に設立されまし 体験を通して森からまた学ぶといっ

山吹沢植林地が私たちの生活に欠 た。その寄贈にあたり、 中津川本流 繰り返して森に関わる営みです。……苗
かせない水源域の森林であること、地 に沿う景勝地の森林は風致林として を植えるとき、枝の張り方や葉の色を
形が平坦で作業の上で安全が確保で 永く保有されること、 本林の経営上 見て、植える向きを決めます。太陽の
きることから、今後も県内の小中高学 得られた利益は、苦学生の秀才教育の 光が木には栄養ですから、苗がそれま
生を対象にした環境教育の貴重な 育英資金として使われることの二つ で育ってきた向きにあわせて植えて
フィールドとして整備していきたい が条件として定められ、今日にいたっ あげます。苗のための穴を掘るとき、
と考えています。子どもたちや市民の ています。このような県有林設立の基 畑の土でも公園の土でもない土が出
皆様に植林作業という作業体験を通 本的理念は、秩父の森林の優れた特性 てきます。手にする森の土は、何千年
して直接に森林に接することができ を維持する上で重要なものでした。 苗の森の営みが作ったものです。苗を
ること、また樹木の生長を末永く観察 玉島の県有林に人工林が占める比率 植えたあと、山では肥料を使いませ
林の果たす役割と大きな可能性があ
ん。どうしてでしょ
う？……。森づくり
楽しいと実感できる場でもあります。



和名倉山南斜面 標高1400m付近のブナの極相林



標高1000～1100mの山吹沢人工林伐採跡地



植栽作業を終えて全員で撮影、背景は樹高3mに伸びた陽樹のオオバアサガラ。

う？……。森づくり
楽しいと実感できる場でもあります。

目次

CONTENTS

巻頭 確かな未来・森づくりが願うもの	1
県有林伐採跡地における森林再生の取組みについて	2
これからの活動予定	
新企画・新緑の秩父ブナ林を歩く	4
第18回和名倉植林ワーク	4
2006百年の森ふれあいコンサート	5
中津川山吹沢県有林の植生	6
森林土壌の世界・エコサロン第1回公開講座を終えて	8
寄稿 ああ 遙かなる日本の緑よ	10
追悼 幸島さん安らかに	12
トピックス	13
2006年 年間スケジュール	15
活動予定・新入会員	16

ジ・サワグルミ・トチ・カツラなどがカンバ類のミズメは、硬さや耐腐朽性に優占するシオジ・サワグルミ林が分布しています。生物多様性や将来の遺伝子資源の維持のために自然植生の良

通の認識、コンセンサスを高めていく。四 これかの植林作業について今後新たに取り組むエリアで、例えば南北に伸びる尾根の西側では、比較的乾燥する立地条件のためミズナ

ラ、イヌブナ、ミズメなどの植林、尾根東側や下部に沢に接する立地では、上部にミズナラ、ブナ、ミズメ、下部

く発達した林分として整備していく(196)らによって興された日本「民藝」運動の伝統をもつ松本民芸家具では、いまでは貴重な材のひとつと保されているといえます。人工林では、スギ・ヒノキ伐採跡地の一部に、秩父本来のシオジやケヤキ、ミズメ、オノオレカンバ、トチ、20種におよぶカエデ類などを高い占有率をもつ

三 育苗 森林再生のプロシエクト 2005年より長瀬と秩父市中津川地区の2か所に畑をお借りすることができました。昨年の秋は、7年ぶりのイヌブナの豊作年にあたり、多く

は、スギ・ヒノキ伐採跡地の一部に、秩父本来のシオジやケヤキ、ミズメ、オノオレカンバ、トチ、20種におよぶカエデ類などを高い占有率をもつ

ラなどが秩父産の苗木によって植林できるようになります。シオジ・ケヤキ・ミズメは、山探苗の育苗、トチ・ミズナラ・ブナ・イヌブナは、ドングリからの育苗を森林再生プロジェクトの一環に組み入れ、伐採跡地の再造林への利用を検討しています。

は、スギ・ヒノキ伐採跡地の一部に、秩父本来のシオジやケヤキ、ミズメ、オノオレカンバ、トチ、20種におよぶカエデ類などを高い占有率をもつ

ラなどが秩父産の苗木によって植林できるようになります。シオジ・ケヤキ・ミズメは、山探苗の育苗、トチ・ミズナラ・ブナ・イヌブナは、ドングリからの育苗を森林再生プロジェクトの一環に組み入れ、伐採跡地の再造林への利用を検討しています。

は、スギ・ヒノキ伐採跡地の一部に、秩父本来のシオジやケヤキ、ミズメ、オノオレカンバ、トチ、20種におよぶカエデ類などを高い占有率をもつ

ラなどが秩父産の苗木によって植林できるようになります。シオジ・ケヤキ・ミズメは、山探苗の育苗、トチ・ミズナラ・ブナ・イヌブナは、ドングリからの育苗を森林再生プロジェクトの一環に組み入れ、伐採跡地の再造林への利用を検討しています。

は、スギ・ヒノキ伐採跡地の一部に、秩父本来のシオジやケヤキ、ミズメ、オノオレカンバ、トチ、20種におよぶカエデ類などを高い占有率をもつ

ラなどが秩父産の苗木によって植林できるようになります。シオジ・ケヤキ・ミズメは、山探苗の育苗、トチ・ミズナラ・ブナ・イヌブナは、ドングリからの育苗を森林再生プロジェクトの一環に組み入れ、伐採跡地の再造林への利用を検討しています。

は、スギ・ヒノキ伐採跡地の一部に、秩父本来のシオジやケヤキ、ミズメ、オノオレカンバ、トチ、20種におよぶカエデ類などを高い占有率をもつ

ラなどが秩父産の苗木によって植林できるようになります。シオジ・ケヤキ・ミズメは、山探苗の育苗、トチ・ミズナラ・ブナ・イヌブナは、ドングリからの育苗を森林再生プロジェクトの一環に組み入れ、伐採跡地の再造林への利用を検討しています。

は、スギ・ヒノキ伐採跡地の一部に、秩父本来のシオジやケヤキ、ミズメ、オノオレカンバ、トチ、20種におよぶカエデ類などを高い占有率をもつ

ラなどが秩父産の苗木によって植林できるようになります。シオジ・ケヤキ・ミズメは、山探苗の育苗、トチ・ミズナラ・ブナ・イヌブナは、ドングリからの育苗を森林再生プロジェクトの一環に組み入れ、伐採跡地の再造林への利用を検討しています。

は、スギ・ヒノキ伐採跡地の一部に、秩父本来のシオジやケヤキ、ミズメ、オノオレカンバ、トチ、20種におよぶカエデ類などを高い占有率をもつ

ラなどが秩父産の苗木によって植林できるようになります。シオジ・ケヤキ・ミズメは、山探苗の育苗、トチ・ミズナラ・ブナ・イヌブナは、ドングリからの育苗を森林再生プロジェクトの一環に組み入れ、伐採跡地の再造林への利用を検討しています。

は、スギ・ヒノキ伐採跡地の一部に、秩父本来のシオジやケヤキ、ミズメ、オノオレカンバ、トチ、20種におよぶカエデ類などを高い占有率をもつ

ラなどが秩父産の苗木によって植林できるようになります。シオジ・ケヤキ・ミズメは、山探苗の育苗、トチ・ミズナラ・ブナ・イヌブナは、ドングリからの育苗を森林再生プロジェクトの一環に組み入れ、伐採跡地の再造林への利用を検討しています。

は、スギ・ヒノキ伐採跡地の一部に、秩父本来のシオジやケヤキ、ミズメ、オノオレカンバ、トチ、20種におよぶカエデ類などを高い占有率をもつ

ラなどが秩父産の苗木によって植林できるようになります。シオジ・ケヤキ・ミズメは、山探苗の育苗、トチ・ミズナラ・ブナ・イヌブナは、ドングリからの育苗を森林再生プロジェクトの一環に組み入れ、伐採跡地の再造林への利用を検討しています。

は、スギ・ヒノキ伐採跡地の一部に、秩父本来のシオジやケヤキ、ミズメ、オノオレカンバ、トチ、20種におよぶカエデ類などを高い占有率をもつ

ラなどが秩父産の苗木によって植林できるようになります。シオジ・ケヤキ・ミズメは、山探苗の育苗、トチ・ミズナラ・ブナ・イヌブナは、ドングリからの育苗を森林再生プロジェクトの一環に組み入れ、伐採跡地の再造林への利用を検討しています。

は、スギ・ヒノキ伐採跡地の一部に、秩父本来のシオジやケヤキ、ミズメ、オノオレカンバ、トチ、20種におよぶカエデ類などを高い占有率をもつ

ラなどが秩父産の苗木によって植林できるようになります。シオジ・ケヤキ・ミズメは、山探苗の育苗、トチ・ミズナラ・ブナ・イヌブナは、ドングリからの育苗を森林再生プロジェクトの一環に組み入れ、伐採跡地の再造林への利用を検討しています。



松本民芸家具ミズメ材の座卓

その比率や施業方法など検討は、林業の選択肢として意義をもつのではないのでしょうか。また、「梓・あすな」の名で知られる



上：ケヤキの人工造林 下：100年生のスギの人工林(秩父市大血川・東京大学演習林内)

うシスでヘキサチューブが有効と思われる。作業時間や費用との関係で設置本数に限りがあり、今年はいくわんたい検討の使用を検討します。防護ネットの設置によって、苗木への被害を抑えることができれば、植栽密度を低くし、植栽本数を少なくすることができます。

こ・れ・か・ら・の・活・動・予・定

埼玉大エコサロン 春の公開講座

新緑の秩父ブナ林を歩く

日時・2006年5月7日

場所・秩父市大滝入川地区 東京大学秩父演習林内

集合・西武秩父駅前 午前9時00分

申込・電話 048-433-8353 岩波まで

秩父山域の標高1000メートルから1600メートルにかけての森林は、植物生態学上「冷温帯（または山地帯）」に分類され、ブナやイヌブナ、ツガ類が優占するブナ林を形成します。5月、ブナ林は一斉に芽吹きはじめ、美しい装いに包まれます。今回は、一般の会員の皆様にも秩父のブナ林を楽しんでいただけるよう、東京大学秩父演習林内の森林をお借りし、埼玉大エコサロンの春の公開講座として企画いたしました。同演習林は、設立以来90年の歴史をもち、今なお豊かな森林植生が残されています。様々な樹木や草花を見ながらの森林散策です。

エコサロンでは、春と秋の2回講座を企画しました。春は野外をフィールドとして、秋は座学を中心に、森林により親しめる機会になればと願っております。多くの会員の皆様の参加をお待ちしています。



秩父入川のブナの大木

第十八回 和名倉植林ワーク

日時・2006年5月27日～28日（日帰り可）

場所・和名倉山仁田小屋尾根

集合・西武秩父駅前 午前9時00分

申込・電話 048-885-6697 会事務局まで

2004年仁田小屋が完成し、昨年は仁田小屋からイヌブナ平までの悪路に変えて、作業道を新たに作る事ができました。その結果、和名倉での森づくりの活動は、とても精力的に行なえるようになり、多くの仲間が参加してくれるようになりました。小屋のおかげで、作業のための時間を十分確保できるようになり、道具の運搬も楽になりました。

昨年は、春と秋の2回のワーク（植林活動）で、冷凍保存ブナ「富士ブナ」の植林を実施。以前に植林したブナはの活着率が思わしくなく、試行的植林として秩父産以外のブナを試してきましたが、半年が経過し順調に生育しています。また昨年は、会員である埼玉の高校山岳部員や埼玉山岳連盟のメンバーにも植林活動を行なってもらいました。山との新しいつきあい方を味わい、楽しみが増したとの感想を寄せてもらいました。今後も定期的に「和名倉山・森づくり活動」を計画し、和名倉山の様々な姿を観察していきたいと思っています。

今年度の「森づくり活動」は春秋2回のワーク（植林）活動を中心に、ブナの活着率の向上とシカの食害対策の確立を目指していきます。和名倉で採種したブナによる森林再生という大きな目標に向かって、時間をかけながら、様々な試行を重ねなければならぬ段階です。広く参加者を募り、楽しい森づくりを続けたいと思っています。



2005.5.28 仁田小屋尾根「一步の森」に植林を終えて



2006 百年の森 ふれあいコンサート

日時 10月15日(日)14:00より
会場 皆野町文化会館

秩父の地で若い演奏家たちの発表の場がほしいと始めた演奏会も、今年で五回目を迎えます。

百年の森ふれあいコンサートとして、植林活動のアピールもしつつ、地域の人たちと楽しみたいとの思いで、有志が話し合って細々と続けてきました。昨年は、桐朋学園大学OG・OB五人によるピアノ、フルート、ヴァイオリン、クラリネット、チェロの演奏と、地域で活動を続ける「コール四季」の女声合唱、合唱コンクールではいつも活躍している秩父高等学校音楽部の大合唱により、会場いっぱい歌の輪が広がりました。みんなの気持ちが一つになると、なんと素適なことが感動しました。

今年は百年の森の会報にも紹介していただき、よりいっそうの交流の場が広がることと思います。十月十五日(日)、皆野町の皆野町文化会館で、会員の皆様のご参加をお待ちしております。

2005年のプログラムより

第一部 女声合唱団「コール四季」

城ヶ島の雨

百万本のバラ

汽車ポッポ

お遍路さん

第一部 秩父高等学校音楽部

宮古の島唄より「狩り俣ぬくいちゃ

風になりたい

夜空ノムコウ

サボテンの花

組曲「蔵王」より「蔵王賛歌」「吹雪」「早春」

宇宙船艦ヤマト

一日に何ども

第三部 桐朋学園大学音楽部OG

美しき青きドナウ

ハカリー舞曲第五番

亜麻色の髪の乙女

リベルタンク

主よ人の望みの喜びを

オーソレモ

ダッタン入の踊り

童謡 さくら

第四部 桐朋学園大学音楽部OG

ダンツイ作曲 フルートとクラリネットのための

の大協奏曲

メンデルスゾーン作曲 ピアノトリオ

第五部

全員による「ふるさと」合唱

全員による「ふるさと」の合唱



百年の森づくりの会のパネル展示



会場の皆野町文化会館

中津川山吹沢県有林の植生（スギ伐採林の二次遷移を追う）

正智深谷高等学校
埼玉県高等学校生物研究会顧問

市川嘉一
牧野彰吾

百年の森づくりの会は埼玉県より大滝村山吹沢県有林のスギ伐採地を借用して植林活動を行っている。既に2003年7月30日、埼玉県高等学校生物研究会はそのスギ伐採地に4つの方形区を設け植生調査を行った。その後埼玉県の植林により1つの方形区（第2区）が失われたが、2005年5月21日、百年の森づくりの会が植林活動を行った際に、そのスギ伐採地における二次遷移の途中の植物群落2ヶ所の調査、およびその伐採地周辺に残存したサワグルミ林の調査を1ヶ所行ったので報告する。

林分の調査では階層を高木層（Ap）、亜高木層（As）、第1低木層（F1）、第2低木層（F2）、草本層（H）、つる植物（C）およびコケ層（M）に分けて調査した。目算で各階層ごとに被度を求め、それをもとにAp・Asの階層は胸高断面積により各種ごとに被度を算出し、他の階層の被度はそれぞれ目算によった。このようにして求めた被度をもとに種別の優占度を求めた。

低木林の調査では、目算で各層ごとに被度を求め、それをもとに各種別の優占度を算出した。

調査数が不十分なので、各層ごとの種組成と優占度のみを示し、解析は後日にまわすことにする。

第1区 オオバアサガラ低木林

標高 1030m(1050mを訂正)
傾斜方向 S10°W
傾斜角度 15度
枠 10m×10m

5m×5mの方形区を北東側に10m×10mに広げた。乾燥気味の緩斜面で、コアカソやタケニグサが激減し、シロイトスゲの増加が顕著だった。埼玉県の絶滅危惧 B類のワニグチソウが見られた。

第3区 オオバアサガラ低木林

標高 1035m
調査地 東経138度47分08.6秒
北緯 36度01分05.9秒
傾斜方向 S56°W
傾斜角度 18.2度
枠 10m×10m

沢筋の近くで湿り気がある。希少植物のナベナは僅か1年で姿を消してタケニグサも激減し、シロイトスゲの増加が顕著だった。希少植物のトモエソウ、埼玉県の準絶滅危惧のシロバナエンレイソウが見られた。なお、前回調査のハイトスゲはシロイトスゲに訂正。

第4区 サワグルミ林

標高 1050m(1040mを訂正)
調査地 東経138度47分08.6秒
北緯 36度01分05.9秒
傾斜方向 S56°W
傾斜角度 18.2度
枠 10m×10m

沢筋近くのガレ場で、この地域の自然植生に近い森林。タケニグサは姿を消した。枯木と思っていたヤマグワが新芽を吹いた。なお、前回調査のApオオバアサガラはおヒョウに訂正。



写真は、調査区を上部より撮影。



サワグルミ
クルミ科 サワグルミ属
Pterocarya rhoifolia

温帯の沢筋に多い落葉高木。幹は直立して高さ30mになる。葉は複葉、奇数羽状で互生する。秩父では材を下駄材として使用した。

写真はいずれも2006年5月初旬撮影。



オオバアサガラ
エゴノキ科 アサガラ属
Pterostyrax hispida

山地にはえる温帯の高木。山形県・岩手県以南に分布する。



シロイトスゲ<白糸菅>
カヤツリグサ科 スゲ属
Carex altemiflora var. *Pseudostrigosa*

山地の日陰に見られる多年草。高さ20cm程度。春に開花。

第1区 オオバアサガラ低木林

階層	優占種	樹高	植被率
A p	なし		
A s	なし		
F 1	オオバアサガラ	3m	3%
F 2	クマイチゴ	1.5m	20%
H	シロイトスゲ	0.2m	100%
M	なし		

階層	種名	優占度
F 1	オオバアサガラ	1
F 1	ブナ (植栽)	1
F 2	クマイチゴ	1
F 2	エビガライチゴ	1
F 2	クサギ	1
F 2	フジウツギ	1
F 2	マルバアオダモ	1
F 2	ホオノキ	1
F 2	リョウブ	1
F 2	タラノキ	1
F 2	モミジイチゴ	1
F 2	チドリノキ	1
F 2	クマシデ	1
F 2	ミズナラ (植栽)	1
F 2	オニグルミ	+
F 2	ウツギ	+
F 2	イヌザクラ	+
F 2	ヤマブキ	+
F 2	ミツバウツギ	+
F 2	ニワトコ	+
F 2	エンコウカエデ	+
F 2	バッコヤナギ	+
F 2	ウリハダカエデ	+
F 2	アサノハカエデ	+
F 2	オトコヨウソメ	+
F 2	コアカソ	+
F 2	チョウジザクラ (植栽)	+
F 2	ケヤキ (植栽)	+
H	シロイトスゲ	4
H	ヒゴクサ	2
H	フキ	2
H	ヨモギ	1
H	タケニグサ	1
H	ミミナグサ	1
H	カエデドコロ	+
H	アキノキリンソウ	+
H	ヒメジョオン	+
H	アカネ	+
H	トモエソウ	+
H	ウバユリ	+
H	ヤマホタルブクロ	+
H	キオン	+
H	ホソエノアザミ	+
H	ツルキンバイ	+
H	オオバヤエムグラ	+
H	ヤクシソウ	+
H	シシウド	+
H	チゴユリ	+
H	ワニグチソウ	+
H	オカトラノオ	+
H	ヒヨドリバナ	+
H	ツルニガクサ	+
H	クサソテツ	+
C	フジ	1
C	サルナシ	+
C	クマヤナギ	+
C	ミツバアケビ	+
C	ハンショウヅル	+
C	コボタンヅル	+
C	ヤマカシユウ	+

第3区 オオバアサガラ低木林

階層	優占種	樹高	植被率
A p	なし		
A s	なし		
F 1	オオバアサガラ	3.5m	52%
F 2	クマイチゴ・エビガライチゴ	1.5m	35%
H	シロイトスゲ	0.2m	90%
M	なし		

階層	種名	優占度
F 1	オオバアサガラ	3
F 1	ムラサキシキブ	1
F 2	クマイチゴ	1
F 2	エビガライチゴ	1
F 2	オオバアサガラ	1
F 2	サワグルミ	1
F 2	フジ	1
F 2	ウツギ	1
F 2	タラノキ	1
F 2	オヒョウ	1
F 2	シオジ	1
F 2	リョウブ	1
F 2	シラカンバ	1
F 2	チドリノキ	1
F 2	ウリハダカエデ	1
F 2	アサノハカエデ	1
F 2	コアカソ	1
F 2	ムラサキシキブ	+
F 2	サンショウ	+
F 2	コシアブラ	+
F 2	ニワトコ	+
F 2	ヌルデ	+
F 2	フサザクラ	+
F 2	アオハダ	+
F 2	ミズナラ	+
F 2	ミズキ	+
F 2	ヤマウルシ	+
F 2	モミジイチゴ	+
F 2	エノキ	+
F 2	ホオノキ	+
F 2	エゴノキ	+
F 2	コバノトネリコ	+
F 2	ハリギリ	+
F 2	アワブキ	+
F 2	イタヤカエデ	+
F 2	ケヤキ (植栽)	+
F 2	ヤマザクラ (植栽)	+
H	シロイトスゲ	4
H	ヒゴクサ	2
H	ヨモギ	1
H	ホソエノアザミ	1
H	ホウチャクソウ	1
H	シロバナエンレイソウ	1
H	マネキグサ	1
H	タケニグサ	+
H	カエデドコロ	+
H	アキノキリンソウ	+
H	アカネ	+
H	ツルキンバイ	+
H	フデリンドウ	+
H	オトコエシ	+
H	フタリシズカ	+
H	ヤマブキ	+
H	ミヤマナルコユリ	+
H	イヌワラビ	+
H	シダ s.p.	+
C	ツルウメモドキ	+
C	ヤマブドウ	+
C	イワガラミ	+
C	ツルマサキ	+
C	ミツバアケビ	+

第4区 サワグルミ林

階層	優占種	樹高	植被率
A p	サワグルミ	20m	80%
A s	イタヤカエデ	10m	80%
F 1	サワシバ	5m	38%
F 2	チドリノキ	2m	13%
H	ハシリドコロ	0.5m	100%
M	なし		

階層	種名	優占度
A p	サワグルミ	4
A p	オヒョウ	2
A s	ヤマグワ	3
A s	イタヤカエデ	3
A s	オヒョウ	1
A s	シオジ	1
F 1	サワシバ	3
F 1	チドリノキ	2
F 2	チドリノキ	2
F 2	ムラサキシキブ	1
F 2	サワシバ	1
F 2	シオジ	+
F 2	サワグルミ	+
F 2	コバノトネリコ	+
F 2	テイカカズラ	+
F 2	オヒョウ	+
H	ハシリドコロ	2
H	ツルマサキ	1
H	ホソエノアザミ	+
H	ミヤマイラクサ	+
H	ヒゲネワチガイソウ	+
H	ヒナスミレ	+

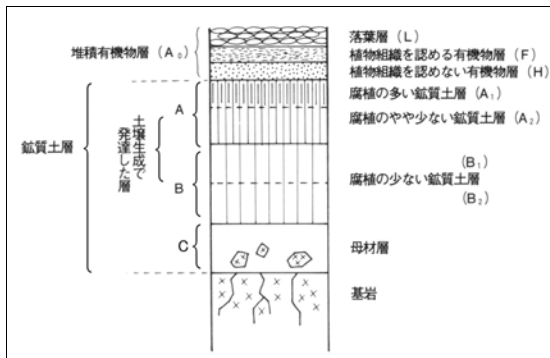


図1 森林土壌の断面

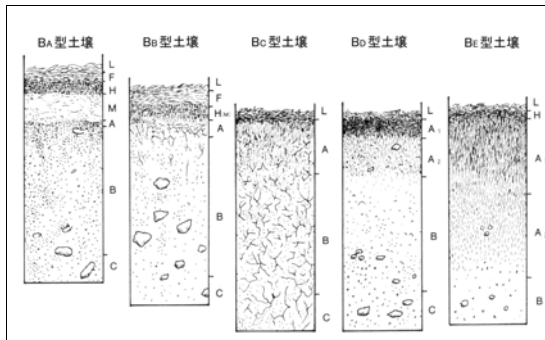


図2 主な土壌型の断面

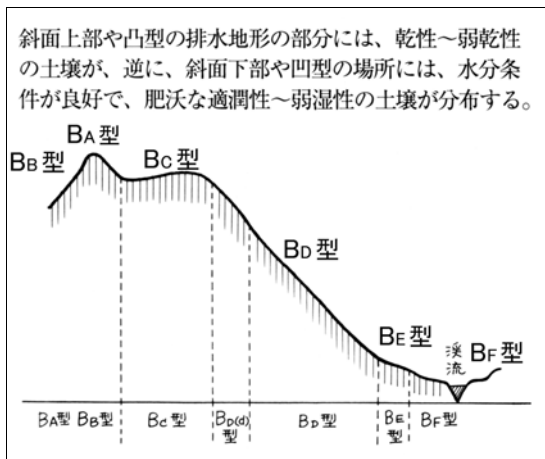


図3 斜面における土壌型の分布

は、森林褐色土で、森林に由来する土壌からできている。他にも「森林黒色土」「赤色土」「ポドソル」など8つのナ帯の森林であるが、尾根の乾燥気味そこには広がっている。

「土壌群」に分類されているが、森林の立地には、ツガやモミのような針葉樹が成立する。下の写真は、斜面の窪地で、人間の愚かな戦争によって放たれた汚染された「腐海」の森を焼き払おうとする人間に向かって、「腐年の森テラス」を生かしていくために記す。土壌型A〜Fと土壌群の分類記号BやBlをくっつけて、BA型、BB型・・・BF型と表記する。図2は、土壌型の種類をまとめたものだが、例えば山の頂上部や尾根の部分の土壌型BAは、乾燥のため微生物の活動が緩やかに、乾燥の分解が進まないためにL層が発達する。斜面の中部から下部のBD型の土壌は、湿潤な条件で落葉は速く分解されて堆積有機物層A0は薄く、逆にA層が良く発達する。そこは森林が成立する良好な適地となり、スギの人工林として広く利用される所である・・・等々。

このように見てくると記号もそれ程難しくなさそうである。そして何よりも、このように森林土壌を捉えることによって、実際にそこに生えている樹種の違いを知ることができる魅力がある。

森林土壌が森林生態系の中で果たす役割は極めて大きく、森林保全も森林土壌の保全を含む保全でなくてはならないといわれているが、解明されていないことも多い。安定した有機物質である「腐植」の形成過程については、微生物の作用を伴う化学反応系の研究領域が広がる「保水能」の2つに限定してお話した。また、秩父には、その貴重な森林を守っている人たちがいることもお伝えしたかった。

埼玉大学のキャンパス内にある「百年の森テラス」を生かしていくために始められた埼玉エコサロン。大学内外の人たちが自由に集い、語り合い、

秩父という世界に誇れる森林があるのだから・・・私の拙い発表がその一歩になれば幸いである。

森林土壌に関する参考文献
「森をささえる土壌の世界」有光一登 『現代林業』2004.6月号〜2006.6月号、林業改良普及双書No.152として刊行 2006年3月

「「フオレストガイド」森林の土壌と水資源の保全」p.194〜207 全国林業普及協会 2002年
「森林学」 森林と土壌 p.286〜358 共立出版 1978年

「近代水源林の誕生とその奇跡」 森林と都市の環境史、泉 桂子 東京大学出版会 2004年
「緑のダム」 蔵治光一郎+保屋野初子共編 築地書館 2004年

「森林生態系の落葉分解と腐植形成」 B.L.グリン、C.マクラン著 大園享司訳 ユニオン・ウエブライヴ東京 2004年



ああ 遙かなる日本の緑よ

百年の森づくりの会 会計監事 高橋 修



応援とはいえ急に決まり、プラント建設関係という仕事柄、またもやアラビア半島に来てしまった。今回はオマーンのソハールというオマーン第二の都市。ここは昔、シンドバッドの本拠地であつたらしい。首都マスカットから海沿いに西へ250キロメートルのところにある。オマーンは正式には Sultanate of Oman といひ、王国である。最近ではサッカーの試合場所としてご存知の方も多いだろう。日本人から見るとサッカーをするには暑すぎると思うのだが、サッカーは非常に盛んである。

4分の3、土地はふんだんにある。アラビア半島の「長靴」の先端、ホルムズ海峡の東側に位置する。オマーンの人はこの地区の海をオマーン湾 (Gulf of Oman)、アラビア半島の人はこの湾をアラビア湾 (Arabian Gulf)、イランの人々はこれをペルシャ湾 (Persian Gulf) と呼ぶようだ。走っている車は日本製が約8割、電気製品、カメラも日本製が圧倒的であり高級品でもあるようで、アラビアの中では特別に日本びいきの国といえるだろう。



建設現場付近のモスク (イスラム寺院)



U.A.E. 国境付近の山並みと現地雇用運転手

このソハールのさらに西20キロメートルのところに自家発電設備、海水淡水化設備、排水処理設備と併せて大型の石油精製設備を建設している。近くには、さらに大型の火力発電所、淡水化設備、メタノール、ポリプロピレン、肥料などのプラント建設が進行しており数年もするとオマーンで一番の工業地帯になるだろう。大きな港もほ

ぼ完成しており、これらはすべてオマーンの国家プロジェクトでもある。普段生活しているキャンブには合計すると約6000人が生活している。元受プラントメーカー関係の日本人は約50人、ヨーロッパ系が約20人、東南アジア系が約150人、さらに建設業者のインド人2000人、エジプト、シリア、レバノンの中東系の人々が3000人、残りはオマーン人で建設受注時の条件で30パーセントの雇用が義務付けられている。ソハールは、もともと漁業と農業、それと港の町である。言語はアラビア語、若干の英語、宗教はイスラム教で町のあちらこちらにモスク (イスラム寺院) が点在している。イスラムの教のコーランが記されている言語アラビア文字は、ちよつと見た目は複雑であり取り付きにくい。地域ごとに若干の違いはあるが、イスラム圏のほとんどの国で使われており言語の中では使っている人の数が世界一かもしれない。第二外国語はアラビア語が良かったかもしれないと思っており、お薦めでもある。文字は右から書く。見た目はきれいだが文字が読めないのもくやしいので、本を探し、研究してみた。表音文字でアルファベットとだいたい対応している。数字とアリフ、バー、ター (A, B, C のようなもの) を覚えれば、地名は読めるし、自分の名前も書くことができる。文字数はたしか28だったと思う。アラビア文字で名前を書くこと

オマーン人と急に親しくなれる。元来イスラム教では困っている人を助けるのがあたりまえで、それをしない人は敬遠されるようだ。結構人柄はよく親切で治安も良い。

さて、本題にはいろいろ、気候はというとやはり砂漠気候だと思う。ただしアラビア半島の国々の中では、比較的ではあるが緑は多いほうだ。椰子(やし)の木が多いのと、赤、紫、橙、白のブーゲンビリアが咲き誇っている。2月で夜は15、昼は日本の真夏並みの暑さ、5月から10月は日本の真夏日の状態で日中は40を越える。直射日光のあたる鉄板は80にもなり卵が焼ける。赴任した夏8月から2月で、半年になるが雨は夏の終わりの時期の10月から11月にかけて、2回しか記憶にない。水の流れている川はまだ見ていない、この言葉でワディというのがあるが水なし川である。そのワディの河原のような景色を見ると昔かなり水が流れていたことが想像できる、ただし地元の運転手に聞くと本人は水が流れているのを見たことが無く、祖父から聞いたことがあるだけだそう。

地図をみると2500メートル級のGreen Mountain という名称の山がマスカットの空港の南部100キロメートルの近辺にある。緑の山はそれだけで、その他の山々は添付の写真でみたと

おりの岩のハゲ山である。しかしながら、この辺は昔から井戸を掘って水を得ている様子である、想像するに、昼間は海から山に風が吹く、ここで海から蒸発した水が運ばれ山で上昇した気流が冷やされ湿気を夜の間に山に落とすのだろう。その露が集まり、地下水として海辺に戻ってくる。最近朝、車のウインドーが露でいっぱいである。

砂漠というと砂の集まりという日本人の概念だが、実際は細かい埃(ほこり)の集合体で地面は硬い、塩分も多い、水はけもよくない。水を含むと粘土状になり、乾くと岩のようになる。夏の日中は乾いた埃が空气中に漂い視界がかなり落ち、近くの山が見えにくくなり、その埃のせいで太陽も輪郭がはっきりしないという砂漠独特のグラフィラとした大きさになる。

この辺の人は太陽を崇拜するというよりも、月が好きなのである。地面は決して肥沃な土地とは言いがたい。



それとは対照的に日本の土は長年、落ち葉の集積と微生物により区畑の黒土のように空気を含みやわらかい。日本の山はほとんどが緑である。四季おりおりにその表情を変え、新緑、花の開花、夏の濃い緑、そして紅葉、落葉した山もまた趣が

あり、落ち葉を踏んで歩くのも山歩きの楽しみでもある。そして冬には雪化粧。

中近東に来ると日本の緑と四季のすばらしさ、落葉広葉樹の大切さを痛感する。またそれを大切に守っていかなければならないという思いがする、原稿を書いたら急に日本が恋しくなってしまう。日本に帰ったら、また植林に励もうと思う。

* 会計監事の高橋修さんから、長期出張先のオマーンからの寄稿をいただきました。埼玉県西部の秩父地方の年間降水量は1300ミリから1400ミリ、比較的雨の多いといわれるオマーンでさえ年間降水量は、1000ミリ。豊かな緑を大切にしたいものです。世界の森林面積は、日本とヨーロッパを除いて毎年減り続けているのが現状です。

幸島さん安らかに

百年の森づくりの会長 内藤 勝久

降り積もる雪の重みで大きな枝がバサツと落ちた。入口にストープのあるキャンプ場と落ちた。入口にストープのあるキャンプ場の東屋風の迎賓館。作業用の半纏を羽織った幸島典男さんから挨拶代わりにまず一献と熱燗。二人のほかに誰もいない。下を流れる中津川の瀬音も聞こえない。雪がしんしんと降る。「これは下の川でとれた秋刀魚です」とユーモアたっぷりに入らに当たり、中津川の天皇といわれる幸島トープにのせる。季節はずれの雪と川でとれた秋刀魚を肴に二人の会話がはずむ。幸島さん愛飲の秩父錦の一升瓶が二時間で空になる。

いただいた。昨年の夏にお邪魔したときに、埼玉大学が植林活動の授業を新年度から始めそうなこと、そのときは中津川をフィールドにすること、民有林に植林するときに入山料、地帯代などを支払うことなど私の構想をお伝えした。「まだ行つたことのない私の山には珍しい巨木が残っている、それらを見てもらうために観察道を整備している」。幸島さん流のエコツアーの具体的なプランを知ってうれしかった。奥様によると、結婚して以来「貫して「材木を生産する林業ではなく、見せる林業」を追い求め、埼玉県からの要請により一度だけ伐採したが、そのほかは間伐、墓きりといった美しい森林をつくることに私財をつぎ込んできたという。「手入れの行き届いた人工林も立派な観光資源になる」との私の考えが立証できる日も近いと思うと心が躍った。そして早い機会に観察道を歩いてみたいと思った。

これほど心のこもった接待を受けたのはそのときが初めてだった。嬉しくなって私は持論のエコツアーリズムのことを話した。勝れた景観、清潔な宿舎、水洗トイレ、地産地消、歴史、文化、もてなしの心、植林などの林業体験がエコツアーリズムの重要な要素であること、手入れの行き届いた人工林も観光資源となること、その意味で幸島家も観光資源となること、その三週間後の二六日、朝、雨が降っていたので中止するかと思つた。畑に播いて苗木を育て、それを植栽すればすべて自前で森林づくりができる。活動が循環し、老若男女が参加できることになり、会の発展に繋がる。しかし肝心の畑が見つからない。ついに幸島さんをお願いすることになった。説明するといとも簡単に王冠沢の空き地を提供してくださった。

その頃から声が出なくなつた。入院されたと聞いたのは十二月のことであつた。正月のご挨拶をかねてお見舞いに伺つたがどの二八日に帰らぬ人となつた。お通夜の晩に私は「中津川を世界に誇れるエコツアーの基地にします」と故人に誓つた。

平成十五年四月五日、中津川の山吹沢で子供たちも参加する一般公募の植林を始め家の当主にご挨拶のため私は電車とバスを乗り継いで、指定された迎賓館を目指した。酒を飲まないと相手にしてもらえないとの情報を得ていたので、マイカーをやめて正解だった。出たときは快晴の空も電車が三峰口に着く頃には雪模様となり、中津川キャンプ場でバスを降りるときには五センチの積雪になっていた。趣旨を伝えご協力をお願いすると快諾いただいたが、素人集団で本当にできるのか心配していたことが後でわかつた。その三週間後の二六日、二七日に植林ほか一連の活動が終了し、閉会のご挨拶をいただいた。「植林の日のなかの中津川こそ、首都圏に隣接する大きなマーケットを持っているだけに、有ていたが、ちゃんと植えたので安心し望なエコツアーリズムの基地になる可能性がた」。会の意志がチェックされていたのであることなど。その後キャンプ場に水洗式の木造のトイレ棟が完成した。「どのぐら

以来それまで以上に親密なお付き合いを

以来それまで以上に親密なお付き合いを



キャンプ場でいつも快く迎えてくださった在りし日の幸島氏

と ぴ っ く す

3月25日 秩父市

秩父市のカエデ植林



「春に芽吹く植樹のつどい」が、3月25日秩父市橋立地区の市有林で行われました。40年生のスギ人工林に80%の強間伐を施し、イタヤカエデ125本、コハウチワカエデ125本を植林しました。作業には、秩父のお菓子屋さんのグループ「お菓子な郷(くに)推進協議会(町田啓介会長)」の方々も加わり、2時間ほど植栽を終わることができました。百年の森づくりの会からは、3名が作業に参加しました。カエデの植えられた場所は、武甲山への登山道にもあたり、数年後には新緑や紅葉が楽しめるところです。



3月25日-26日 和名倉仁田小屋

仁田小屋 小屋開き

3月25日 - 26日、仁田小屋の整備作業を会員6人で実施し、2006年の活動のスタートをきりました。

仁田小屋の南斜面に昨年植栽したミズナラやコナラの苗木は、すべてシカの食べられていました。本来草原の動物であるシカたちは、今では標高1000m以上、人工林より上部の落葉樹林帯に追いやられています。仁田小屋周辺はシカを多く見かけるところですが、秋から早春にかけて植物へのシカの食害圧がいかに大きいか分かります。

仁田小屋に至る雲取林道は、鷹の巣沢付近で大きな崩落があり、車での通行ができない状態でした。奥山での森林整備の困難さ、難しさを実感しました。



小屋下南斜面のミズナラの植栽 (2005.10)



崩落を繰り返す雲取林道

9月24日～10月21日 どんぐり拾い

ブナ・イヌブナのどんぐり拾い



秩父ブナ林の中で、最も多く優占するイヌブナは、7年ぶりに豊作となり、5回にわたり東京大学秩父演習林内、中津川県有林内で、どんぐり(堅果)を採取し、30,000粒を播くことができました(右:長瀬の苗畑、左:中津川の苗畑)。

- 9月24日(土) 東大秩父演習林採種・中津川苗畑播種
- 10月2日(日) 東大秩父演習林採種・中津川苗畑播種
- 10月10日(月) 東大秩父演習林採種・中津川苗畑播種
- 10月16日(日) 東大秩父演習林・中津川県有林採種
- 10月21日(金) 長瀬苗畑播種



3月に入り暖かな日が多かったためか、すでに双葉を広げています。

春から夏にかけて、水遣りや草取りなど、様々な作業が必要になりますが、会員の皆様のご協力をお願いいたします。作業に入られる場合は、事前に担当責任者の野澤常務

理事までご連絡ください。

なお、長瀬の苗畑では、7月1日(土)・2日(日)イヌブナの苗をポットに移植する作業を行います。多くの皆様の参加をお願いいたします。

7月1日(土)・2日(日) 10:00より ポット苗仕立て作業
飲み物・弁当持参

連絡先: 秩父郡長瀬町大字長瀬1339-4

TEL 0494-66-0315

野澤まで



宮脇 昭 先生
「いのちを守る鎮守の森」
-秩父から世界へ-

長瀬宝登山神社の森林再生の取組みに先立ち、日本を代表する植物生態学者である宮脇昭先生の講演会が開かれました。宮脇先生は、その土地本来の樹種による本物の森づくりの必要を強く訴えられました。宮脇先生には、講演会終了後、1時間以上にわたり質疑応答の時間を取っていただき、会員（64名参加）からの質問に一つ一つ丁寧に答えてくださいました。

宮脇先生が指導する森づくりの一つに、NPO法人「森びとプロジェクト委員会」が進める足尾の森林再生事業があります。同委員会では、森づくりのためのインストラクター養成講座「森びと教室」を開催しています。百年の森づくりの会からは、3名の参加枠を確保しましたので、参加ご希望の方は、野澤常務理事までご連絡ください。

TEL 0494-66-0315 野澤まで

第2期「森びと教室」(インストラクター養成)

チャレンジしませんか！足尾・わたらせ川源流の「森びと」に世界各国をかけめぐり3千万本以上の木を植え、ふるさとの森づくりを指導している宮脇 昭先生が森びとインストラクターを養成します。

講義内容

- ・「生物の命を守るドングリの森づくり」(第1回、第2回、第5回)
- ・宮脇 昭先生の実践と理論
 - ・足尾町の自然環境と文化、旧足尾銅山の歴史(第1回)
 - ・30数年間、足尾の岩山を森へ再生しつづけてきた元林野庁職員・村上壮亮さんの案内による現地踏査。
 - ・旧足尾銅山の功罪を調査・研究しているグループの皆さんとの現地踏査と「足尾歴史館」での学習。田中正造の人生から現代人の方向性を探る。
 - ・「誰もがおいしい」と感じている地球の異常気象(第1回)
 - ・温暖化がすすむなかで、人間は何をなすべきかを大石正道さん(理学博士)とともに探る。
- ・「ドングリの森づくり実習」(第1回、第2回、第5回)
- ・宮脇 昭先生指導による苗づくりと植樹のノウハウ、基礎を習得。
 - ・「木は根、根は土」、土の基礎知識(第4回)
 - ・土の研究者とともに現場で土に触れて、臭いをかいで、舐めながら土の基礎知識を学ぶ。
 - ・森びとインストラクターの経験を積む(第2回、第5回)
 - ・6月と10月に実施する「足尾・ふるさとの森づくり」では、参加者へ植樹と苗づくりのアドバイスを行う。

テスト

- ・宮脇 昭理論と自然環境破壊の基礎知識を身につける(第3回)
- ・7月中旬から8月末の間に、レポート形式のテストを行う。回答の評価は宮脇先生と大石先生等にお問い合わせする予定。

日程

- | | | |
|-----|-----------|--------------------|
| 第1回 | 5月4～7日 | 宮脇理論と森づくり実習 |
| 第2回 | 6月23～24日 | 土の基礎知識とドングリの苗づくり実習 |
| 第3回 | 7月中旬～8月末 | 宮脇理論と自然環境破壊に関するテスト |
| 第4回 | 10月14日 | 土の基礎知識とドングリの苗づくり実習 |
| 第5回 | 10月21～22日 | 苗木づくりの実習とアドバイス |

募集人員

高校生以上の大人 35人

詳細は、<http://www.moribito.net/plan2006/index.htm>。

上下流交流による森づくりシンポジウム



1月29日埼玉県主催による「上下流(じょう・かりゅう)交流による森づくりシンポジウム」川越市民会館で行われました。上流(林業生産者)と下流(木材消費者)が相互に協力しながら森林づくりをしていくためには、どうしたらよいかをテーマに行われました。シンポジウムの基調講演には、「共生の思想と森づくり」と題して、世界的な建築家である黒川紀章氏が、「共生(ともいき)」という仏教の教えを「共生の思想」として深められた氏の思索の歩みを語りながら、現代の世界観・世界認識において重要な概念であり、氏の設計思想の根底にあること、「都市と森林の共生」の意味と必要性を具体的な事例にそって訴えられた。

パネルディスカッションでは、原 邦紘・こだま森林組合組合長、内藤会長、馬場 弘・埼玉県木材協会副会長、嘉成勝子・企業組合ゆあ理事が登壇し、短い時間のなかで有意義な意見交換がおこなわれました。原組合長からは、埼玉県内の木材年間消費量200万m³に対して県産材は5万m³しか使われていないこと、素材生産システムの構築を通して国内林業でも十分に対応できることなど、長い経験をふまえた力強い提案がありました。内藤会長からは、以下の内容で会の活動が紹介されました。

豊かな森林植生に恵まれた秩父の山々
県下最大の山林火災・和名倉焼失
和名倉ブナ植林の試み
森林整備の拠点・和名倉仁田小屋の再建
水源の森は皆で守る・市民参加の植林活動
夢の継承・子ども達による植林活動
秩父森林植生の保全・自前の苗づくりと地域の活性化

参考文献：黒川紀章氏の著作

- 「新・共生の思想」/世界の新秩序 徳間書店 1996年
- 「都市革命」/公有から共有へ 中央公論新社 2006年





2006年 年間スケジュール

月	理事会	森林保全・植林活動		百年の森づくり森林再生プロジェクト		イベント・講演会等	埼玉エコサロン
	①	和名倉山 ②	中津川山吹沢 ③	長瀬苗畑 ④	中津川苗畑 ⑤	⑥	⑦
1月						1.29 川越市民会館 上下流交流による森づくりシンポジウム	
2月	平成17年度第2回理事会					2.11 宝登山神社 宮脇 昭先生講演会 「いのちを守る鎮守の森」 -秩父から世界へ-	
3月	会報第11号 発行	3.25-26 仁田小屋開き・整備	3.18 5.20植林作業地調査				
4月					4.22 苗畑整備・シカ柵・寒冷紗設置		大学内展示・広報活動
5月	平成18年度第1回理事会	5.27-28 第18回和名倉植林作業 仁田小屋尾根ブナ植林	5.20 山吹沢植林作業 第4回荒川源流森づくり体験 ブナ 30本 ミズナラ 500本ほか		5.21 山採苗採取 シオジ・ケヤキ ポット苗仕立作業		5.7 春の公開講座 「新緑の秩父ブナ林を歩く」 一般参加者募集・定員30名
6月	6.18 大宮ソニックシティ 平成18年度通常総会			水やり・苗畑整備	6.17 イヌブナポット苗仕立作業	6.18 大宮ソニックシティ 総会記念講演会 秩父神社宮司 藤田 稔氏 「森に生きる日本文化」	
7月		7.7-9 和名倉山ナシ尾根調査	7.22 山吹沢下刈作業	6.17 ポット苗仕立準備	水やり・苗畑整備		7.1~2 埼玉大学 授業支援準備・調査
8月				7.1-2 ポット苗移植			8.11~13 埼玉大学「スポーツ実技 (トレッキング)」授業支援
9月	会報第12号 発行						9.1~3 埼玉大学 授業支援 9.15~17 埼玉大学 授業支援
10月		10.28-29 第19回和名倉植林作業 仁田小屋尾根ブナ植林		10.14 ドングリ拾い 播種・移植作業	10.14 ドングリ拾い 播種・移植作業	10.15 皆野町文化会館 百年の森ふれあいコンサート	
11月		11.25-26 仁田小屋情報交流会	植林苗生長調査		11月初旬 第1回 中津川カエデウォッチング (計測作業と紅葉狩り)	11.** 埼玉百年の森テラス 百年の森交流会	
12月							12.9 大宮ソニックカレッジ エコサロン冬の公開講座

百年の森づくりの会では、会員の多くの皆様が様々な活動にご自由に参加して下さることを願っております。各々の活動についてのお問い合わせは、下記の担当者までお願いいたします。

- ① 理事会活動：小林公彦 kobayashi@tbn.t-com.ne.jp 会費納入・会員管理：東 克明 k-azuma@pop16.odn.ne.jp
- ② 和名倉植林：野澤和雄 nozawaya@athena.ocn.ne.jp 仁田小屋管理・運用：高岡正彦 wanakura2036@yahoo.co.jp
- ③ 山吹沢植林：田島克己 tajima@gol.com
- ④ 長瀬苗畑：野澤和雄 nozawaya@athena.ocn.ne.jp
- ⑤ 中津川苗畑：島崎武重郎 kobusi@fc4.so-net.ne.jp
- ⑥ 講演会：小林公彦 kobayashi@tbn.t-com.ne.jp
- ⑦ 埼玉エコサロン：岩波靖夫 iwanami@d2.dion.ne.jp

その他のお問い合わせについては、当会事務局までお願いいたします。

TEL：048-885-6697 FAX：048-882-0245 e-mail：k.naito@naitohoken.co.jp

これからの活動予定

エコサロン「新緑の秩父ブナ林を歩く」
5月7日(日) / 東京大学秩父演習林内

第4回「荒川源流森づくり体験」山吹沢の森づくり
5月20日(土) / 中津川県有林内

第18回 和名倉植林ワーク
5月27日(土)~28日(日) / 和名倉山仁田小屋尾根

育苗作業・ポット苗仕立て作業 / 長瀬苗畑
6月17日(土)ポット苗仕立て準備
7月1日(土)~2日(日)移植

第6回総会
6月18日(日)14:00~ / 大宮ソニックシティビル4F

記念講演会
秩父神社宮司 園田 稔氏「森に生きる日本文化」
6月18日(日)15:00~ / 大宮ソニックシティビル4F

埼玉大学植林授業支援準備・調査
7月1日(土)~2日(日) / 秩父市大滝・中津川

和名倉ナシ尾根調査
7月7日(金)~9日(日) / 和名倉山

どんぐり拾い・播種作業
10月14日(土) / 長瀬・中津川

百年の森ふれあいコンサート
10月15日(日) / 皆野町文化会館

第19回 和名倉植林ワーク
10月28日(土)~29日(日) / 和名倉山仁田小屋尾根

百年の森交流会
11月初旬 / 埼玉大学

中津川カエデウォッシング・調査
11月初旬 / 秩父市大滝・中津川

仁田小屋情報交流会
11月25日(土)~26日(日) / 仁田小屋

埼玉大エコサロン「冬の公開講座」
12月9日(土) / 埼玉大学大宮ソニックカレッジ

大滝名物「中津いも」

2005年11月の埼玉大学の学園祭で用意した300個の中津いもは、瞬く間に売り切れ。大滝直伝のミソと岩波さんの心のこもった作り方で好評でした。中津いもは、大滝の高冷地にしかできないジャガイモ、実のしまった味わい深いオイモです。



会員募集

荒川の源流、秩父の山々はいのち豊かな森林におおわれています。森林を守り育てるさまざま活動にぜひご参加ください。

年会費：個人会員 2,000円 / 法人会員 10,000円(2年分以上まとめて払込もできます)

振込先：郵便振替 00140-0-555239 百年の森づくりの会

銀行振込 埼玉りそな銀行 南浦和支店 普通3835666 百年の森づくりの会会長 内藤勝久

現会員(会員番号 氏名 住所) 2005.9.26~2006.3.25入会者

786 林 睦雄 杉並区/787 新井是男 北本市/788 鈴木紀子 杉並区/789 太田 和彦 新宿区/790 鈴木たか子 杉並区/791 大前昭二 柏市/792 木島 厚 春日部市/793 ふる里の自然を守る会 代表 大崎守 さいたま市/794 峯川正行 台東区/795 中村 瑛 立川市/796 藤田昌己 練馬区/797 高橋久美子 秩父市/798 松村義隆 小金井市/799 高橋 守 飯能市/800 須田隆夫 新座市/801 荻野治平 越生町/802 島村 暁 川越市/803 相澤 光 荒川区/804 足助

喜生 板橋区/805 千葉 清 さいたま市/806 ぶぎん総合リース(株) さいたま市/807 村田 潔 さいたま市/808 さいたま総合保険サービス(株) さいたま市/809 秋武知子 さいたま市/810 日東商事(株) さいたま市/811 宮地邦昭 川越市/812 田川敏明 川越市/813 ぶぎん保証(株) さいたま市/814 神田仁史 さいたま市/815 五月女光弘 富士見市/816 (株)ぶぎん地域経済研究所 さいたま市

和名倉百年の森 第11号 2006年3月31日発行

発行 百年の森づくりの会 内藤勝久
編集 百年の森づくりの会 広報委員会

百年の森づくりの会 事務局

〒336-0015 さいたま市南区太田窪 2 0 3 4 - 1
TEL: 048 - 885 - 6697 / FAX: 048 - 882 - 0245
e-mail: k.naito@naitohoken.co.jp
<http://www.geocities.jp/wanapura/>